

教育課程の展開例を活用したタブレット活用のアイデア

1 活用した教育課程の展開例 → 特2-10

2 展開例を活用したタブレット活用のアイデア

4 指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 実態や現状の把握(つかむ) アンケート結果や映像資料を提示し、学級全体で挨拶の様子について話し合う。</p>	<p>○ 挨拶をしてもらってうれしかった体験を発表し、挨拶の大切さに気付かせる。 ○ アンケート結果や自分たちが挨拶をしている映像資料を示し、日頃の挨拶の様子を振り返るとともに課題を見つけられるようにする。</p> <p> 下を見て挨拶をしている子が多いね。</p>
<p>2 原因の追求(さぐる) (1) 気持ちのよい挨拶ができない原因を考える。</p>	<p>○ 役割演技などを行い、気持ちのよい挨拶ができないときの気持ちを考える。</p> <p>挨拶を返してもらえないと、悲しい気持ちになるよ。 </p>
<p>3 解決方法等の話し合い(見つける) 「気持ちのよい挨拶」をすまぬことに、気を付けて話し合う。 個人目標の意思決定(決める) 一人一人が今後のめあてをもつ。</p>	<p>○ 「あいさつ運動」の映像を見て、自分たちの挨拶との違いに気付くことができるようにする。 ○ 多くの方法を発表することで、一人一人がめあてをたてるときに、それらを比べながら、選んだり参考にしたりできるようにする。 ○ 本時を振り返り、今後自分がどのような挨拶をするか具体的なめあてや実践方法を決め、カードに記入できるようにする。</p>

① ロイロノートの色別テキストを提出させることで、アンケート結果を提示する。

② 挨拶できない原因をロイロノートのシンキングツール(PMI)を利用して考え、共有ノートで紹介し合う。

③ 生活委員会の挨拶運動の様子を動画撮影して映像をタブレット端末で提示する。

3 タブレット活用の有効性について

- ① ロイロノートの色別のテキストを教師に提出したものを全員分映し出すことで、それぞれの考えがすぐに共有できると共に、学級全体の傾向がすぐに把握できることでその後の話し合いに活かすことができる。
- ② シンキングツールを使って共有ノートを利用して考えさせることで、自分の考えをもつことが難しい児童も他の児童の意見を参考にして考えることができる。また、自分と似た考え、違った考えの理由から自分の考えを広げることができる。
- ③ 高学年の挨拶運動の映像を、個々のタブレット端末に送って手元で見せることで、細かな表情や相手の反応なども分かりやすく提示することができる。